

サトウキビ品種「農林27号」の夏植え一株出し体系での窒素施用量

「農林27号」の夏植え一株出し体系での窒素施用量は、夏植え栽培では22kg/10a、株出し栽培では24kg/10aが適当

背景・目的

- ・「農林27号」は、夏植え栽培で「農林8号」より多収品種で、夏植え一株出し体系で面積拡大推進中
- ・「農林27号」の夏植え一株出し体系での窒素施用量を明らかにする

成果の内容

- ・夏植え栽培の収量：現行の施肥基準（窒素施用量22kg/10a）が適当で、原料茎重で13t/10a程度の確保が可能
- ・株出し栽培の収量：現行の施肥基準（窒素施用量24kg/10a）が適当で、原料茎重で10t/10a程度の確保が可能
- ・これより多く施肥しても増収効果は望めず、施肥効率は低下

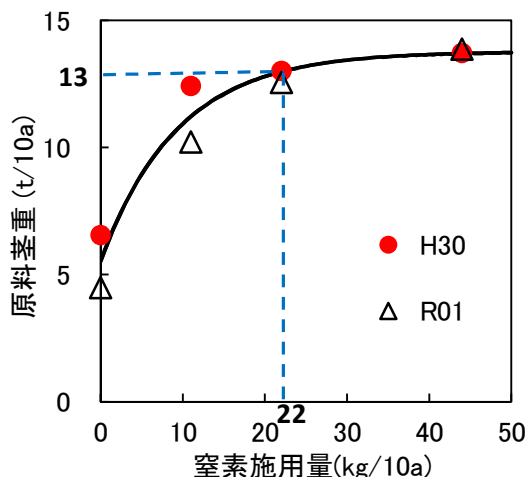


図1 夏植え栽培での窒素施用量と収量の関係

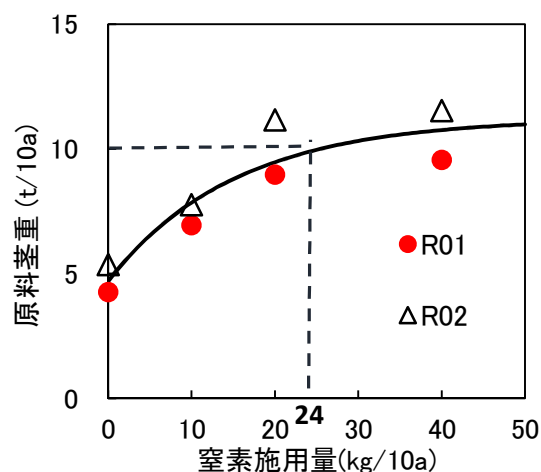


図2 株出し栽培での窒素施用量と収量の関係

◎奄美地域での作型別目標収量（さとうきび栽培指針，県糖振協，H27年1月）
夏植え：10t/10a，株出し：9t/10a，春植え：8t/10a

期待される効果

- 夏植え一株出し体系での適正な窒素施用による安定生産
- 過剰施肥回避による肥料コスト低減

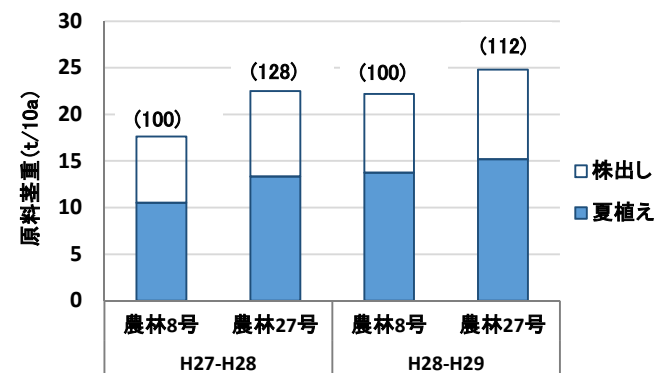


図 夏植え一株出し体系での収量
(H30年普及に移す研究成果より)
()は「農林8号」に対する指数

「農林27号」は夏植え一株出し体系で「農林8号」より多収であるが、特に施肥量増の必要はなく、現行の施肥基準量で目標収量を確保

- 普及対象・範囲
奄美地域のサトウキビ生産者

鹿児島県農業開発総合センター
徳之島支場園芸土壌研究室

(R03)